

令和6年度 研究授業 社会科学習指導案

令和6年 10月22日(火)・3校時

【授業者】新出 美穂

【単元】公民的分野 私たちの生活と政治 くらしを支える地方自治

【学年・組】3年2組

【場所】3年2組教室

三原市立第五中学校

3 年 2 組 社会科学学習指導案

【指導者】 新出 美穂 【単元名】 暮らしを支える地方自治

単元観について

本単元は、中学校学習指導要領公民的分野（以下、学習指導要領）の大項目 C「私たちと政治」のうち、中項目（2）「民主政治と政治参加」に基づいて設定されたものである。本単元の中項目について、学習指導要領には以下の通り示されている。

C 私たちと政治

(2) 民主政治と政治参加

対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

（ア）国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解すること。

（イ）議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解すること。

（ウ）国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解すること。

（エ）地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解すること。

イ 地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて、次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。□

これらを受け、民主主義や民主政治の基本となる考え方を理解するとともに、イ（ア）にある「民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する」力を身に付けることをねらいとして設定した。

本単元は、身近な地域社会の現状と課題を追究したり、解決したりする活動を通して、よりよい地域社会を創造するために有意義な単元であると考ええる。また、3年後には選挙権を得る主権者として、民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成していく単元である。そして、社会科の目標である「公民としての資質・能力の基礎」を育成するのにふさわしい単元であると考ええる。

生徒観について

3年生が4月に実施したNRTの問題の中で、次の問題の正答率が特に低かった。

次の発表は下線部②の地租改正についての説明です。発表中の□に入る説明を下線部の内容との違いが分かるように「**地価**」という言葉を使い 15 字以内で書きなさい。

「それまでは、百姓は年貢として収穫高の 40～50％を米で納めましたが、地租改正の実施後は、土地の所有者は地租として□ようになりました。その結果、政府の収入は、米の値段や収穫高に左右されず安定するようになりました。」

（NRT 中学2年社会より抜粋）

これは、地租改正についての説明的知識を問う問題である。学年の正答率は4％（本学級は3％）と極めて低かった。NRTにおいて、語句や地名等の事實的知識を答える問題の正答率は平均58％であった。地租改正について、語句、内容ともに授業で取り扱うが、地租改正の語句は知っていても概念として捉えること

ができていないと考えられる。各単元での重要語句の理解、概念の習得に加え、身につけた概念を別の場面に活用することに課題があるといえる。

また、3 学年を対象に、政治の単元に入る前に「政治に関するアンケート」を実施した。以下の表は、結果の一部を示している。

内容	3 学年全体		3 年 2 組	
	肯定的意見	否定的意見	肯定的意見	否定的意見
政治に興味はありますか？	31.4%	68.6%	35.5%	64.5%
政治に期待していますか？	39.5%	60.5%	48.4%	51.6%
18 歳になったら選挙に行ってみようと思いますか？	59.3%	40.7%	58.0%	42.0%

結果から、全体的に政治に興味がある生徒は少ないものの、政治参加に対する意欲は、政治に対する興味・期待に比べ、高いことが分かる。本学級は、学年全体と比較して、政治に対する興味・期待が高いのに対して、政治参加への意欲が低い。理由として、説明的知識や概念的知識の習得に関する指導や、社会的事象について自分事として捉える指導が十分ではなかったことが考えられる。そのため、政治の概念が分からず、政治が本来果たす役割が認識できていないことが考えられる。

指導観について

本単元の指導にあたっては、次の 2 点に重点を置く。

1 点目は、「概念的知識の習得と活用」である。概念的知識とは、複数の事象にみられる共通の要素あるいは関係、傾向性について説明する一般的な知識であり、多くの事象について説明可能な転移しうる知識である。生徒の現状から、これまでの社会科の授業が事實的知識の習得に留まっていることや他の場面で事實的知識を活用した活動が行われていないことが指導上の課題と考えた。そのため、中項目や小単元の初めに、「政治とは何か」という共通した問いを提示し、生徒に政治の概念をつかませたい。従来、事實的知識から概念的知識を習得させていたものを、概念的知識を習得した上で事實的知識を習得させることで、「知識・技能」の習得だけでなく、次の小単元でより具体化した概念的知識を活用できる力を身につけていく。

2 点目は、「現代社会との関連をもたせること」である。アンケート等で明らかになった「事象について自分事と捉え、他者と協働して解決することに乏しい」ことから、社会科の授業で得た知識や思考した事象を実生活と関連付けることができていないと考えた。そこで、カリキュラムを入れ替え、生徒の「政治が身近に感じられない」という感覚を補うために、地方自治（三原市の政治）について先に取り扱う。これにより、政治が生活と密接であることや三原市の課題を解決するための手段等を捉えやすく、生徒が現代社会と政治の関連を実感しやすいと考える。学習の際には、三原市の課題を捉えることができる複数の資料を提示する。そして、「三原市まちづくりプラン（仮）」を既習知識や生徒自身・周りの大人の意見をもとに作成させる。意見の対立を調整し、よりよい地方自治を目指す政治の在り方と関連付けたい。

以上のことを踏まえ、中項目を貫く問い「理想の民主政治とは、どのような政治だろう」について、追究したり、解決したりする活動を通して、民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成していく。

単元の目標

- 地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治のしくみ、住民の権利や義務について理解することができる。【知識・技能】
- 対立と合意、効率と公正、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や直接請求などの政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。【思考・判断・表現】
- 民主政治と政治参加について、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治のしくみ、住民の権利や義務について理解している。	対立と合意、効率と公正、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や直接請求などの政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	民主政治と政治参加について、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

(2) 単元指導計画（全6時間）

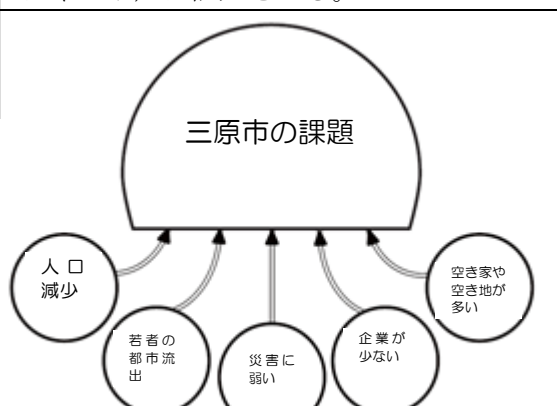
次	学習内容	時間	評価規準	評価の観点			評価の方法
				知 技	思 判 表	主 学 態	
1	パフォーマンス課題の設定 - 三原市に住んできた生活体験から、三原市をよりよくするために「求めること」を挙げる。 - 挙げられた意見を交流し、多数派の意見と少数派の意見があることをつかむ。	1	③民主政治と政治参加の意義を意欲的に追究しようとしている。 ②さまざまな意見を調整し、具体化する手段や方法について考察している。		◎	○	ワークシート 行動観察 振り返りシート
単元を貫く課題「三原市の課題を解決するために三原市政にどう関わるとよいだろう」 ～三原市まちづくりプランを作成して、三原を盛り上げよう！～							
2	地方自治の意義としくみについて理解する。 【ICT】	1	①地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治のしくみについて理解している。	○			ワークシート 行動観察 振り返りシート
3	資料から地方公共団体の課題について読み取る。 【ICT】	1	①財政における国と地方の関係を理解している。 ②地方公共団体の課題を多面的・多角的に考察している。	○	◎		ワークシート 行動観察 振り返りシート
4 5	三原市の課題を改善するプランを考え、班で「三原市まちづくりプラン」を作成する。（本時1／2） 【ICT】	2	②集約した意見を整理・分析し、三原市の課題を適切に捉えている。 ③家庭学習において調査した周りの大人の意見とクラスの意見を調整し、よりよいプランを作成しようとしている。		○	◎	ワークシート 行動観察 振り返りシート Google スライド
6	作成した「三原市まちづくりビジョン」を班ごとに提案する。 【ICT】	1	②学習した内容やさまざまな世代から収集した意見をもとに、スライドにまとめプレゼンすることができている。 ③地域の課題を適切に捉え、課題解決のために主体的に社会に関わろうとしている。		○	◎	ワークシート 行動観察 振り返りシート Google スライド

本時の学習

(1) 本時の目標

三原市の課題を解決するための「三原市まちづくりプラン」を考えることができる。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
1 既習事項の確認をする。（前時の振り返りをする。）【5分】		
○前時の内容を確認する。 ICTの活用① モニターを使って、使用した資料を提示し、三原市の課題を認識させる。	○三原市の課題を適切に捉えているか、資料等を確認させる。 三原市の課題 ・人口が減少し続けている ・自主財源が少なくなっている ・空き家が増えている ・災害対策 など	
2 本時のめあてを確認し、課題を発見・共有する。【5分】		
○めあてを書く。 課題の設定	○これまでの政治の学習や家庭学習で家族に調査した意見をもとに、三原市の課題を解決するプランを作成することを提示・確認する。 ○2時間でプラン作成、1時間で発表する見通しを持たせる。	
【めあて】 三原市の課題を解決するための「三原市まちづくりプラン」を考えることができる。		
3 本時の課題解決に向けて考える。【30分】		
情報の収集 整理・分析 ○スプレットシートから大人の意見を把握し、三原市の課題を捉える。 (個人思考) 【ICT】 ICTの活用② Google スプレットシートから集約された情報を分析させる。	○スプレットシートにある意見とクラスから出た意見を比較し、課題を捉えさせる。 ○課題を分類できるように視点を明確にさせる。 ○明らかになった課題を思考ツール（クラゲチャート）に記入させる。  <pre> graph TD A(三原市の課題) B(人口減少) --> A C(若者の都市流出) --> A D(災害に弱い) --> A E(企業が少ない) --> A F(空き家や空き地が多い) --> A </pre>	○集約した意見を整理・分析し、三原市の課題を適切に捉えている。 (ワークシート)

○情報から明らかになった課題を交流し、改善すべき優先順位をつける。 (班思考) ○三原市まちづくりプランを考える。 (班思考)	【支援を要する生徒への手立て】 多く出ている課題を取り上げるようにポイントを示す。 ○新たに出てきた課題をワークシートに記入させていく。 ○話し合いの上、改善すべき優先順位が一番高い課題についてまちづくりプランを考えさせていく。その際、少数意見をどのように尊重するか検討させる。 ○まちづくりプランを実行することにより、どのような効果が期待できるか思考ツール（ステップチャート）に可視化させる。 <pre> graph TD A[「〇〇（課題）」を解決する] --> B[] B --> C[] C --> D[例) 三原市は「〇〇」になる] </pre> 【支援を要する生徒への手立て】 情報から課題をとらえられなかった場合は、班員の意見をしっかりと聞き、ワークシートに記入させる。	○家庭学習において調査した周りの大人の意見とクラスの意見を調整し、よりよいプランを作成しようとしている。（ワークシート、行動観察）
---	---	--

4 本時の学習を振り返る。【10 分】

まとめ・振り返り ○次時に何をすべきか確認する。 ○振り返りシートに記入する。	○次時は、プランを完成させることを伝える。 ○プランを完成させるためにどのような計画で取り組むか班内で確認させる。 ○「R 80」で「①本時でわかったこと」と「②次の授業に生かしたいこと」を記入させる。	
---	--	--

【振り返りの例】

- ・三原市の課題は、人口減少であると答えた人が予想以上に多かった。だから、次の時間では人口減少が少しでも止めることができるプランを考えていきたい。（72 字）
- ・大人の意見は、「産業」に関する内容が多いことがわかった。しかし、今後は、若者が減っていく予想があるのでどのように実現するか考えないといけない。（71 字）

（3）板書計画

めあて：三原市の課題を解決するための「三原市まちづくりプラン」を考えることができる。